**（ａ）研究領域の目的、背景など**

様式Ｓ－７１ 領域計画書（添付ファイル項目）

本研究領域の目的や背景などについて記述すること。特に次の点について具体的かつ明確に記述すること（４頁以内）。

１）本提案のどういった点が、学問分野に新たな変革や転換をもたらし、既存の学問分野の枠に収まらない新興・融合領域の創成や当該学問分野の強い先端的な部分の発展・飛躍的な展開などが期待できる基礎的研究（基礎から応用への展開を目指すものを含む）に該当するのか

２）領域研究の応募に至った背景・経緯

３）国際的な研究動向から見た優位性、又は我が国固有の分野若しくは国内外に例を見ない独創性・新規性を有する（期待される）研究領域であるか（これまでの研究活動（研究水準の現状・実績）等を踏まえて記述）

領域計画書作成に当たって留意すること

○本留意事項の内容を十分に確認し、領域計画書の作成時にはこのテキストボックスごと削除すること○

留意事項①：

*1.　本研究種目は、多様な研究者による研究グループの、これまでの研究で培った経験から生まれてくる、既存の概念を覆すようなアイデアや発見、手法等により研究を推進し、これまでの学術の体系や方向を大きく変革・転換させることを先導することを目的としたものです。*

*2.　本提案の検討に当たっては、重要と考えられてきた概念を根本的に変化させたり、まったく新しいパラダイムの創造へとつながる可能性のある研究など学術の変革を導くような飛躍的な展開を可能とする潜在性を有するものであることについて留意すること。*

*3.　学術変革領域研究（Ａ）は、公募要領（「Ⅱ.公募の内容　３．各研究種目の内容　①学術変革領域研究（Ａ・Ｂ）　（１）」参照）記載の四つの審査区分により、広い分野の委員構成で多角的視点から審査が行われることに留意の上、領域計画書を作成すること。*

留意事項②：

*1.　作成に当たっては、領域計画書作成・記入要領を必ず確認すること。*

*2.　本文全体は１１ポイント以上の大きさの文字等を使用すること。*

*3.　各頁の上部のタイトルと指示書きは動かさないこと。*

*4.　指示書きで定められた頁数は超えないこと。なお、空白の頁が生じても削除しないこと。*

○本留意事項の内容を十分に確認し、領域計画書の作成時にはこのテキストボックスごと削除すること○

**（ｂ）領域マネジメント体制**

領域マネジメント体制について記述すること。特に次の点について具体的かつ明確に記述すること（３頁以内）。

１）領域代表者の研究領域の運営や推進に関するビジョン及び準備段階における状況

複数の研究者をまとめ、領域推進に当たって研究組織の総合力を発揮するために、研究とは別に、リーダーである領域代表者が、どのような構想を持って円滑な組織運営をし、研究領域を推進するかについて、基本的な考え方を明らかにすること。また、応募に至るまでの準備研究や事前調査段階でのマネジメント体制の状況にも触れつつ、記述すること。なお、領域代表者が総括班以外の計画研究のいずれにも、研究代表者、研究分担者又は研究協力者として参画しない場合は、研究を行わない組織とされている総括班にのみ属している状況において研究領域全体の把握、マネジメントを行うための方策について、具体的に記述すること。

２）領域代表者を中心とした領域推進に十分貢献できる研究者による有機的な連携体制

研究領域の構成について記述すること。また、概念図を用いつつ、研究領域全体の組織図等により、総括班、各研究組織の役割及び活動内容等を明確に示すこと。

３）総括班、各研究組織の役割及び活動内容等

・研究領域を推進するに当たっての総括班の運営方針、役割、研究組織の構成、個々の構成員の役割、活動内容等について基本となる考え方を説明すること。構成員については、構成員の氏名、専門分野及び研究代表者・研究分担者の別を記入すること。その際、どのように本研究領域の全体的な研究方針を策定し、各研究項目、各計画研究の企画調整等を行っていくのか明らかにすること。

・総括班における研究支援活動（国際活動支援や本研究領域内で共用するための設備・装置の購入、開発、運用又は実験試料や資材の提供など）を効率的かつ効果的に行うための体制及び計画について記述すること。

**研究遂行能力**

領域代表者及び各計画研究の研究代表者の研究計画の実行可能性を示すため、領域代表者及び各計画研究の研究代表者のこれまでの研究活動（主要な研究業績を含む）について記述すること（５頁以内）。

なお、これまでの研究活動の記述には、研究計画に関連した国際的な取組（国際共同研究の実施歴や海外機関での研究歴等）がある場合には必要に応じてその内容を含めること。また、研究活動を中断していた期間がある場合には、その説明などを含めてもよい。

○本留意事項の内容を十分に確認し、領域計画書の作成時にはこのテキストボックスごと削除すること○

*留意事項：*

*1.　研究業績（論文、著書、産業財産権、招待講演等）は、網羅的に記載するのではなく、本研究計画の実行可能性を説明する上で、その根拠となる文献等の主要なものを適宜記載すること。*

*2.　研究業績の記述に当たっては、当該研究業績を同定するに十分な情報を記載すること。*

*例として、学術論文の場合は論文名、著者名、掲載誌名、巻号や頁等、発表年（西暦）、著書の場合はその書誌情報、など。*

*3.　論文は、既に掲載されているもの又は掲載が確定しているものに限って記載すること。*

○本留意事項の内容を十分に確認し、領域計画書の作成時にはこのテキストボックスごと削除すること○

**（１）領域代表者**

**（２）各計画研究の研究代表者**

**（ｃ）領域推進の計画概要**

当該研究領域の推進に当たっての、

１）基本的な研究戦略（研究項目を設ける場合にはその考え方を含む）

２）研究領域における具体的な研究内容（研究項目を設ける場合には項目ごとの研究内容を含む）

３）各研究項目、各計画研究の必要性及び研究項目間、計画研究間での有機的連携を図るための具体的方法

について、必要に応じて概念図等を用いて示すこと（２頁以内）。

**（ｃ）領域推進の計画・方法①**

領域推進の計画・方法について記述すること。特に次の点について具体的かつ明確に記述すること（２頁以内）。

１）研究領域及び各計画研究の具体的な達成目標

２）１）を実現する具体的な計画・方法（共同研究、設備の共用化、若手研究者の育成等の取組を含む）

研究目的を達成するための具体的な研究計画・方法について記述すること。

３）国内外への情報発信などの取組内容

**（ｃ）領域推進の計画・方法②**

領域推進の計画・方法について記述すること。特に次の点について具体的かつ明確に記述すること。

４）総括班以外の各計画研究の研究組織及び研究内容の概要

総括班以外の各計画研究の研究課題名、研究組織（予定される研究者数、研究代表者、研究分担者の氏名・所属・職・専門分野・研究役割分担）及び研究内容の概要について、研究領域全体の推進に当たっての役割及び必要性が明確になるように分かりやすく記述すること。作成に当たっては、計画研究ごとに1/2頁程度で作成すること。

なお、研究期間の途中から計画研究を追加することを想定した計画は認められない。

**（ｃ）領域推進の計画・方法③**

領域推進の計画・方法について記述すること。特に次の点について具体的かつ明確に記述すること（１頁以内）。

５）公募研究の役割

公募研究は、領域設定期間の１年目に令和９(2027)～令和10(2028)年度分、３年目に令和11(2029)～令和12(2030)年度分の公募が行われる。本研究領域の推進に当たって、公募研究がどのような位置付けにあり、研究領域全体として、どのような研究を期待するのかについて記述すること。本研究領域として何件程度の公募研究課題を必要とし、１研究課題当たり、どの程度の研究経費が必要かを示すこと。公募研究の金額を設定する際は、研究遂行が十分可能な研究経費を計上すること。なお、公募研究の設定に当たっては、次の最低基準のいずれかを上回るように設定すること。

・１年目と３年目それぞれの採択目安件数が15件を上回ること

・公募研究にかかる経費の総額（令和９(2027)～令和12(2030)年度の合計）が研究領域全体の研究経費（５年総額）の15％を上回ること

採択された研究領域の公募研究への配分総額は、領域計画書に記載の「公募研究」の「研究経費」の範囲内で設定される。

**（ｄ）過去の採択研究領域等からの発展性（該当する研究領域のみ）**

過去の採択研究領域等からの発展性について記述すること。特に次の点について具体的かつ明確に記述すること（１頁以内）。

１）過去に「学術変革領域研究（Ａ・Ｂ）」「新学術領域研究（研究領域提案型）」又は他の研究費制度において採択された領域型研究を更に発展させる提案については、当該研究費で期待された成果が十分得られたか（中間評価・事後評価（当該研究費の配分機関が行うものに限る）がある場合はその結果についても記述）、更に強い先端的な部分の発展・飛躍的な展開を図る内容となっているか（当該研究領域における研究計画との違いについても記述）

２）応募情報（Web入力項目）において「該当しない」を選択した場合は、その旨を記述

**（ｅ）研究経費①**

本研究領域の研究内容及び研究体制等を踏まえ、応募する研究経費の必要性・妥当性について研究期間との関連性を含めて記述すること（１頁以内）。

なお、研究期間内の特定の年度に重点的に研究費を配分する場合、又は年間の応募研究経費の総額（総括班、公募研究を含む。）が、応募上限である３億円を超える場合は、年度ごとに３億円では対応ができない理由、その必要性について記述すること。

１年度目は計画研究のみが研究等を開始することになるため、注意すること。

**（ｅ）研究経費②**

各計画研究の費目別内訳及び主要な設備備品費について記述すること。特に次の点について具体的かつ明確に記述すること。なお、ここでの計画研究には総括班を含む（可能な限り２頁以内で記入すること。ただし、必要があれば３頁になっても構わない。）。

１）各計画研究の費目別の内訳について、領域計画書作成・入力要領の記入例を参照の上、計画年度別に簡潔に記入すること。その際、どの計画研究のものかが分かるように作成すること。また、最後に各費目別の合計を記入すること。

２）各計画研究の主要な設備備品費については、装置名、数量、予定価格、設置年度、設置予定機関、設置予定機関の現有設備が活用できない理由等について記入すること。なお、研究領域内で共用するための装置・設備を購入するにもかかわらず、各計画研究において、類似の装置・設備の購入等を行う場合には、その理由・関係性を記述すること。